



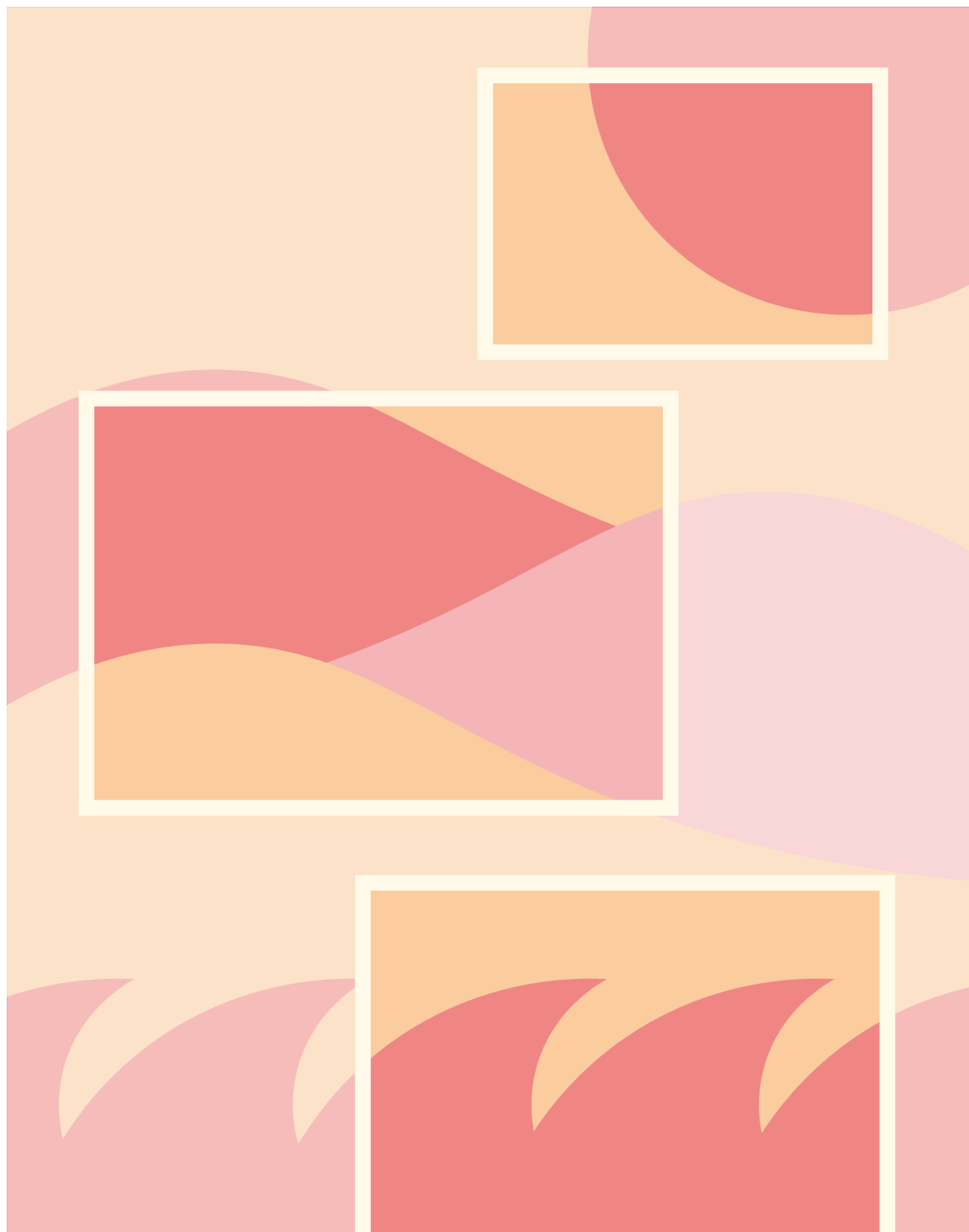
781

2025
8.22

フォトコンテスト受賞作発表

NISSEIKAN NEWS

日精看ニュース





受賞作を含めた応募作を
YouTubeの動画でご覧
いただけます。

NISSEIKAN
PHOTO
CONTEST

2025年度

につせいかん フォトコンテスト 受賞作発表

審査概要 作品の募集は、本誌とチラシ、ホームページ、公式 SNS で実施。応募総数 90 点を対象に、2025 年 5 月 8 日にオンラインにより審査会を開催いたしました。

審査員
(敬称略) 吉川隆博（一般社団法人日本精神科看護協会会長）、工藤正志・中園明子（同副会長）、中庭良枝（同本部長）、西岡由江（こころの健康推進委員会委員長）、花田政之・比嘉将和（こころの健康推進委員会委員）、彼岸華（「わたしが見つけた!アート写真コンテスト」殿堂入り作者）

精神障がいのある方々の日常を彩る写真表現の活動を応援し、その表現を支える看護職の姿を伝える写真コンテスト。今年度も多くのご応募をいただきました。審査では、「どの作品にも力強い個性と物語がある」「見ていて惹き込まれる」といった声が寄せられました。選び抜かれた入賞作品 6 点を、受賞者へのインタビューとあわせてご紹介します。

につせいかん賞

「はあとのココロ」(2025 年撮影)

作者／まろんさん

推薦者／坂本泰樹さん（千葉県・総合病院国保旭中央病院）

作者・まろんさんのお話 ▶ 素敵な賞に選んでいただき、ありがとうございます。まさか選ばれるとは思っていなかったの、最初は冗談かと思いました(笑)。デイケアのみんなが「すごーい!」と囲んでくれたときに喜びがこみ上げてきました。

普段は撮った写真を時々インスタグラムに投稿するくらいですが、デイケアのスタッフの方から勧められて応募しました。この作品は、桜の時期に、デイケアのプログラムで体育館に移動してるときまた見つけた花びらの吹き寄せです。ハートの形が「かわいいな」と思って撮りました。いつか撮ってみたいのは、雪の日の夜の銀山温泉やシマエナガです。

推薦者・坂本さんのお話 ▶ 私は、まろんさんが通うデイケアで作業療法士として働いています。まろんさんは、デイケアプログラムの一つ「写真散歩」に参加しているメンバーのお1人です。写真撮影だけでなく、お気に入りの写真を見せあいながら会話を楽しむ時間になっています。同じ写真でも、見る人によって印象が変わるのが写真の面白さだと思います。「はあとのココロ」という題も、ほかのメンバーさんと「平仮名がいいかな、カタカナがいいかな」と相談して決めていました。作品はデイケアの施設内に飾る予定で、その日にはまたきっと皆さんの笑顔が見られるだろうと楽しみです。



ドリーム賞

「紡ぐ灯火。」(2019 年撮影)

作者／のあさん（秦野病院・訪問看護ステーションえみふる）

作者・のあさんのお話 ▶ 昨年に続いての受賞、大変光栄に思っております。2 年連続で受賞できるとは思っていなかったの、夢のような気持ちです。応募を勧めくださった訪問看護ステーションのスタッフさんに真っ先に報告をして、とても喜んでもらえたことが私にとって支えになりました。

賞をいただいた作品は、神奈川県江の島で毎年行われているキャンドルナイトのイベントで撮影したものです。あたたかいキャンドルの灯りのなかで、とてもやさしい気持ちでシャッターを切っていたことを覚えています。この写真を見てくださった誰かの心にやさしく灯火を紡いでいけるようにと、このタイトルをつけました。

シャッターを切る瞬間で、時間を切り取ることができること、そしてそれが色褪せない思い出になることが、私が写真を好きな理由です。私に一眼レフをプレゼントしてくれた夫にも感謝しています。今後は、大切な方のやさしくて素敵な笑顔や、日常に溶け込む自然体の姿の人物の撮影にも取り組んでいきたいと思っています。





ストーリー賞

「働き者の手。おばあちゃん」(2025年撮影)

作者／小宮祐美さん(神奈川県)

作者・小宮さんのお話▶ 写真に写っている手の主は、私のおばあちゃんです。97歳の今も元気で働き者。私はあまり働き者ではないので(笑)、とても尊敬しています。庭仕事を終えて縁側でひなたぼっこしていたおばあちゃんの隣に座ってパチリ。自分でも「いい写真が撮れたな」と思っていたのでけっこう自信はあったのですが、実際に受賞したという知らせを聞いたときはうれしかったです。記念品の盾を見せたら、おばあちゃんも「すごいね」と喜んでいました。

ちょっと落ち込んでいたところに、訪問看護師さんから勧められて初めて応募したフォトコンテスト。来年も連続受賞をねらってチャレンジしたいです。



ユニーク賞

「どこにある?」(2022年撮影)

作者／ちるちるさん | 推薦者／菅沼利幸さん
(新潟県・医療法人白日会黒川病院精神科デイケア)



推薦者・菅沼さんのお話▶ このたびは栄えある賞に選んでいただき、ありがとうございます。作者のちるちるさんに代わり、コメントをさせていただきます。

受賞作は、当院精神科デイケアの「フォト」という写真のプログラムにちるちるさんが参加した際に撮影したものです。敷地内の駐車場の水たまりのリフレクション(映り込み)を生かした作品で、独自の視点が光る素敵な作品だと思います。「どこにある?」とやわらかく問いかける題も、ご本人によるものです。受賞を伝えて記念品をお渡ししたところ、とてもうれしそうな顔をしていました。

私自身も趣味として写真に長く親しんでいますが、写真表現の魅力は「正解がないこと」です。これからはちるちるさんを含めた皆さんとともに、写真を通じたコミュニケーションを楽しんでいきたいと思っています。



審査員特別賞(写しかたの魔術 de 賞)

「冬の空」(2013年撮影)

作者／Sato-Cさん(神奈川県)



作者・Sato-Cさんのお話▶ 僕は生まれ育った小田原の地でずっと写真を撮り続けています。特に「青」の表現が好きなので、自然と空や海の写真が多くなります。背の高い建物が少ない小田原は空が広く、特に冬は空気が澄んでキレイに撮れます。

この写真は、12年前の年の暮れに、たしか自転車でコンビニに寄った帰りに見た風景です。通っているライブバーで「写真撮ってよ」と言われたり、個展で仲良くなる人がいたり、写真を通じて人との出会いも広がっているなど感じます。このコンテストには初回から参加していますが、来年は人物写真を出してみようかなと計画中です。ほかの応募者の作品を観るのも楽しみです。Instagramでも写真を発表しているので、ぜひ観てもらえたらうれしいです。



アイデア賞

「展望台を眺める」(2024年撮影)

作者／高野健太さん(大分県)



作者・高野さんのお話▶ 昨年の2月、河津桜の名所で知られる津久見市の四浦半島まで母と出かけました。早咲きの桜を見ようと、高台のほうへと昇っていく途中、カーブミラーに映る展望台が視界に入り、思わずスマートフォンで撮りました。タイトルを「展望台から眺める」ではなく「展望台を眺める」にしたのは、そんな偶然の面白さを表現したかったからです。

普段は写真よりも絵を描くことのほうが多いのですが、絵も最初から構図を決めるより、心が動くままに創作するのが好きです。訪問看護師さんから聞いてたまたま応募してみたコンテストでしたが、受賞を聞いて、自分よりも母が大喜びしていました。これからは自分のペースで写真を楽しんでいきたいです。



組織の特徴に合った教育の仕組みを考える

当センターの教育プログラムは「子どもの育ちを支える看護」を基本として、キャリアラダーと専門ラダー（小児整形コース／児童・思春期精神看護コース）の2つの柱で構成されています。

キャリアラダーは日本看護協会のクリニカルラダーに示された4つの項目に「自己教育・研究能力」「組織的役割遂行能力」を追加した項目になっており、専門ラダーは小児整形外科や児童・思春期精神科の専門的な能力に特化した内容を示しています。キャリアラダーと専門ラダーの2つを使っていくことになりますので、キャリアとしては何が求められているのか、児童・思春期精神看護の実践ではどのような力が必要なのかがわかりやすくなっています。

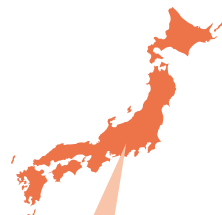
児童・思春期精神看護コースのラダーを整理するにあたって、以前は「児童・思春期精神科病棟における看護実践向上のためのコンピテンシーモデル」（研究代表・船越明子）を使い児童・思春期精神科ラダーの評価表を作成しましたが、発達や育ちの視点が中心となり精神面のアセスメントや精神科技術を学ぶ機会が必要であると感じ、日精看版ラダーの要素も取り入れることにしました。到達目標と行動指標の部分はコンピテンシーモデルの要素を使い、看護実践能力などの各項目は日精看版ラダーの要素を使って整理しています。行動指標に示されたことがどのような実践能力を意味するのか、そのつながりが見える仕組みになっています。

これらを整理していくときには、教育委員4名とアドバイザー1名の計5名で集まり、意見交換をしながら1つ1つの項目を吟味していきました。誰か一人が作成するスタイルより、全員でディスカッションをしながら進めるほうが項目の理解が深まり、楽しく作業を進めることができました。

児童・思春期の分野では、病院それぞれの環境が異なるため、別の病院に就職したらこれまでの知識や

お話をしてくださった方

- 左：坂谷政子さん（副看護部長、精神科認定看護師、公認心理師、児童精神専門ラダーアドバイザー）
中央：服部礼佳さん（医療安全管理室室長、教育看護部長）
右：市場晶代さん（副看護部長、前教育委員）



病院DATA



三重県立子ども心身発達医療センター

- 【所在地】三重県津市
【病床数】110床（児童精神科80床／小児整形外科30床）
【看護職員数】看護師66名（6月時点）

技術がそのまま通用するわけではありません。学生時代に学ぶ機会が十分ではない児童・思春期精神科看護は、教育や心理、保育などの知識が必要であり、子どもに応じた看護を展開するためには、包括的な視点と柔軟な考え方が求められます。当センターの専門ラダーには、これらの必要な能力が示されているので、ほかで経験がある人にも活用しやすいのではないかと考えています。

OJTを大事にしていきたい

ラダーを活かしていくにはOJTが欠かせません。評価者としてはラダーの理解に加え、スタッフ個々の能力や課題を把握して実践の場でいかにかかわるかが大事だと感じていますし、それぞれのスタッフが主体的に学び、実践できるような支援をしていきたいと思っています。主体性を引き出すのは難しいですが、スタッフに児童精神看護の楽しさや魅力を感じてもらえるようになったらうれしいです。

図 児童精神科ラダーⅠ 到達目標と評価表

到達段階		レベルⅠ	OJT	レベルⅠに必要な研修
児童・思春期精神科病棟における看護実践向上のためのコンピテンシーモデル				
到達目標		1. 指導や教育のもとで、子どもとの関係性を発展させることができる。 2. 子どもたちとの関係性を踏まえ計画的に看護を実践することができる。		
A	【目標】 関係性を構築する力	◆ 援助の基盤づくり 子どもへの生活支援や個別の関わりを通して楽しい時間を共有し、関係性を発展させることができる。		
日精看版ラダー		行動指標：		
看護実践能力	A1 関係構築	① 普段の関わるの場面から、子どものペースを尊重し、脅かさずに一緒に過ごすことができる。 ② 子どもの訴えを否定せずに聴き、子どもの体験を理解しながら、あるがままを受け入れることができる。		
	A2 関係構築	③ 看護職の倫理的行動について理解し、子どもの権利を尊重した看護の必要性を理解できる。		
		④ 守秘義務を守り子どもと家族が安心して自由に話せるように配慮する ⑤ 子どもとの楽しい時間を作って共有する ⑥ 子どもとの興味・関心を共有する ⑦ 子どもに遊びを教えたらう ⑧ 子どもとの興味・関心に応じた関わりを行う ⑨ 子どもとの生活の支援をする ⑩ 1対1の関わりを持つ ⋮		
		研修 アンガーマネジメント1＊ 看護過程＊ ・プロセスレコード(1-②) ・アンガーマネジメントⅡ(1-②) ・児童精神科看護を学ぶ前に知っておいてほしいこと＊ 施設虐待＊ 看護倫理＊		



木戸芳史(きど・よしふみ)
浜松医科大学医学部看護学科 教授
日本精神科看護協会 業務執行理事
(静岡県)



学術集会論文の
提出に関する
情報はコチラから

#24 事例研究と症例報告

今回は、事例研究の特徴を「症例報告(実践報告・ケースレポート)との違い」という視点からお話しします。

みなさんは「事例研究」と「症例報告」、どこが違うと思いますか? 事例研究と症例報告は、どちらも看護実践を振り返り、分析し、学習を深めるための方法ですが、焦点を当てる対象や目的が異なります。

症例報告は、特定の患者の疾患や治療経過を詳細に記述し、新たな知見や臨床的な価値を提供することをめざします。一方、事例研究は、特定の看護実践における出来事や状況を分析し、看護師自身の思考や行動、そして看護の質向上につなげることを目的とします。生成AIを使って簡単にまとめたのが、右の表です。

事例研究は、特定の事例を詳細に分析し、そこから得られた知見を、他の事例にも応用可能な形で一般化することを目的とする研究活動です。症例報告とは異なり、明確な研究テーマを設

定し、関連する文献を検索・分析することによって先行研究や理論的背景を把握する必要があります。

特徴	事例研究	症例報告
目的	特定の事例を分析し、そこから得られた知見を、他の事例にも応用可能な一般的な法則やパターンとして抽出すること。	稀な疾患、新しい治療法、新しい看護実践、予期せぬ経過など、臨床的に興味深い事例を詳細に記録し、他の医療従事者と共有すること。
焦点	看護師の思考過程、意思決定、看護技術、患者とのかかわり。個々の事例の背後にある、より普遍的な要因やメカニズム。	個々の事例の具体的な状況、症状、診断、治療、看護および経過。
期待される成果	分析結果から得られた知見を、他の事例にも応用可能な形で一般化する。	新しい知見の提示、看護実践のヒントを共有する。

地域から届けます! 精神科看護師のメッセージ

いま、地域で働く精神科看護師が増えて
います。みなさん、どのようなことを大切
にしながら実践しているのでしょうか。



訪問看護の情報はコチラから

第11回 企業で働く人の心身の健康増進、予防に取り組む

昨年からは、社員のコーピングスキルを高めることを目的に、年代別に45分間のセミナーを開催しています。不眠やストレス解消法が過度な飲酒につながることも多いので、飲酒運転の危険性を話の入り口にしながら適切なストレス対処の方法を伝えたり、アンガー

社員として同じ目線で情報提供

私は、上司と部下との間に立ち疲弊しやすい立場の中間管理職に対して、自分自身を大切にセルフケア、部下の様子に気を配るラインケアについても伝えていきます。

ストレスの原因、ストレス対処の方法に気づく働きかけ

私が勤務しているジェイテクトフルードパワースystemは、社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」に積極的に取り組んでいる法人として、「健康経営優良法人」に認定されています。社員が健康で充実した生活ができる職場をつくるという当社の目的ののっとり、私は産業看護師として社員の心身の健康増進や予防に日々取り組んでいます。

取り組みの例として、義務化されたストレスチェックを実施後、部署ごとに高ストレス原因などについて集団分析された結果をもとに、私のほうで詳細な分析を加えわかりやすくかみ砕いて、部署長に伝えることで職場の環境改善につなげてもらったり、どういう対応をすべきかについて助言を行っています。

また、上司と部下との間に立ち疲弊しやすい立場の中間管理職に対して、自分自身を大切にセルフケア、部下の様子に気を配るラインケアについても伝えていきます。

以前、精神科クリニックでリワークデイケアを担当していたとき、「もっと早く対応できていれば」と思ったことがこの仕事に就くきっかけとなりました。これからも未病の方の予防に努めていきたいと思っています。

マネジメントのセミナーも行いました。個別の健康相談では、「自分がどういうストレスに弱いのか」「どういうことが予防につながるか」など自らの特徴や思考・行動パターンに気づいてもらうことを大切に、認知行動療法や動機づけ面接の手法を活かしながらかわっています。

看護職はつい問題解決型になってしまいうきらいがありますが、同じ会社員として同じ目線で情報を提供していきたいと思っています。「健康のことについてはあの『物知りなおばちゃん』に聞けばいい!」と思ってもらえるようになりたいです。

病院勤務をしながらでも、地域の学校などを訪問し、ストレス対処の方法を伝えて予防や早期介入につなげてほしいです。



片山 砂織(かたやま・さおり)
株式会社ジェイテクトフルードパワースystem 経営管理部 総務安全環境室 安全環境グループ 産業看護師、精神科認定看護師、公認心理師、飲酒運転防止インストラクター(愛知県)

精神科認定看護師実践報告

精神科認定看護師は全国のさまざまな施設で、質の高い看護実践に取り組んでいます。その現場での実践内容を紹介します。
*なお、倫理的配慮として個人が特定されないよう、事例には改変を加えています。

精神科認定看護師 JOURNAL

実践の背景

当院は高度救命救急センターを有する479床の急性期病院であり、24時間365日、救急患者を受け入れています。精神科の病床はありませんが、精神疾患のある患者さんや身体疾患の治療のなかで精神的な不調をきたす患者さんは少なくありません。

私は現在、リソースナース室に所属しており、精神科認定看護師としての活動は相談がメインとなっています。急性期病院という機能上、治療がスムーズに進むことが最優先です。そのため、せん妄や認知症の中核症状、BPSDが出現すると、病棟スタッフは対応に難渋し、相談が入ります。

ベッドサイドに足を運んで看護実践

Aさんは易怒性の強い認知症の患者さんで、精査・加療のため緊急入院となりました。末梢から点滴は1本でしたが、絶飲食で24時間持続点滴が必要であることや転倒予防のため、やむなく入院時から体幹拘束をしていました。ルートは目に入らないよう包帯で保護する、襟元からルートを出す、日中はスタッフステーションで見守る、などしていましたが、自己抜去が頻回でした。また、三方活栓部分を外し出血する、ルートを引きちぎる、クレンメを触って輸液速度を変えてしまう

などの行為がありました。

このような状況があり、数日後からやむを得ず両上肢抑制と両手ミトンの使用が必要となりました。

ある日、病棟看護師から「内服拒否で困っている」という相談がありました。Aさんは検査が終了し食事開始となっていたのですが、すべてにおいて拒否している状態とのこと。ベッドサイドに行くと、以前まで怒っていたAさんが泣いていました。入院や検査の理由もわからず、身体拘束は解除されず、すべてをあきらめきった様子でした。

まず私は、Aさんの身体拘束を解除して車いすに移乗してもらい、一緒に棟内散歩を実施しました。外の景色を見たAさんは、ほっとしたような表情をしていました。翌日もAさんのもとに行き、前日と同



多職種カンファレンスの様子

様の対応を実施。昼食のためスタッフステーションで一緒に過ごしていると、病棟看護師がAさんに声をかけてきました。そこで、私はAさんの心情やアセスメントしたこと、拘束解除につなげてほしいといったことを伝えました。

その日以降、身体拘束は1か所を除いて解除され、日中は離床をはかってくれたスタッフも出てきました。また、食事・内服の拒否も徐々に解消されました。

忙しい日常のなかで病棟スタッフとどうかわかるか

当院は三次救急病院のため病棟は常に多忙をきわめ、一人ひとりの患者さんといじくりかわる時間がなかなかありません。また、病棟看護師と患者さんのケアに関してディスカッションする時間もなかなかとれず、相談に対する返答はカルテ記載を通じて行うことも多いのが現状です。さらに、病棟に所属していない私の提案は、ともすると圧力や煩わしいものにとらえられ、「今後、相談はしないでください」と思われかねません。

私自身がこまめにベッドサイドに足を運び看護実践している姿を見せること、隙間時間を縫ってスタッフとコミュニケーションをはかっていくことが今後の課題だと感じています。



栗山 絵里(くりやま・えり)
医療法人徳洲会宇治徳洲会病院(京都府)
精神科認定看護師(2022年登録)

「精神科の病床がない当院でも、精神疾患をもつ患者さんが安心して入院生活を送ることができる環境をつくりたい」と思い、精神科認定看護師をめざしました。



精神科認定看護師制度
ガイドブックや過去問題
集など情報満載

INFORMATION

精神科認定看護師制度

9月は第20回精神科認定看護師受講資格審査の出願期間

精神科認定看護師制度は今年度改正し、精神科認定看護師教育課程が充実しました。

さらにオンデマンド配信やライブ配信を取り入れました。

2026年度の精神科認定看護師教育課程の受講生を募集します。

受講資格審査の出願要項や精神科認定看護師制度の詳しい情報は、日精看オンラインをご確認ください。

1. アドミッションポリシー

本教育課程では、アドミッションポリシーに示すような人を求めています。資格取得をめざす方は、ご自身を振り返りましょう。施設内で資格取得をめざす方を選考するときの参考としてご活用ください。

アドミッションポリシー

- ① 基本的人権を尊重できる人
- ② やさしさ・温かさを有する人
- ③ 自分の意見を率直に伝えられる人
- ④ 他者の意見に耳を傾けられる人
- ⑤ 精神科看護の実践において熱意をもって取り組める人
- ⑥ 困難な課題であっても、諦めず他者と協力して取り組める人
- ⑦ 社会や組織の動向に関心をもちつづけられる人
- ⑧ 現場を超え、地域や社会の課題に疑問をもち考えられる人
- ⑨ 精神科医療・看護・福祉に関する基礎的知識を備えている人
- ⑩ 基本的な文章表現力が備わっている人

2. 募集人員

80名

3. 出願資格について

2025/9/30時点で表1(1)～(2)の要件を満たす者
出願資格についてご不明な点がございましたら、お電話でお問い合わせください。

表1 受講資格審査の出願要件

- (1) 日本国の看護師の免許を有すること。
- (2) 精神科認定看護師として必要な実務経験を積んでいること。
ここで必要な実務経験とは、看護師の資格取得後、通算5年以上の看護実務に従事し、そのうち通算3年以上は精神科看護実務に従事していること。

表2 精神科看護実務に該当する勤務経験の例

- 精神科病院、精神科病棟、精神科外来における勤務
- 精神科以外の病院や施設での認知症患者やせん妄、うつ状態の患者に対する看護
- 精神障がい者や認知症患者に対する訪問看護
- 精神障害、知的障害、発達障害等の施設や事業所における勤務
- 精神保健福祉センター、保健所、教育機関、一般企業等における精神保健に関する業務

4. 出願手続き

- (1) 出願期間 2025/9/1(月)～2025/9/30(火) (必着)
- (2) 出願書類 日精看オンラインにある出願要項を参照

5. 資格審査料

会員：22,000 円(税込) 非会員：44,000 円(税込)

6. 選抜方法

- (1) 選考方法 小論文、書類審査
- (2) 審査日程 2025/11/6(木)
- (3) 試験会場 日本精神科看護協会 東京研修会場
〒108-0075
東京都港区港南 2-12-33 品川キャナルビル 7F

7. 審査結果

2025/12/5(金)、本人へ書面による通知。

合格者の受験番号をオンラインで公表。

出願に関する詳しい情報は、
日精看オンラインの
「精神科認定看護師制度」
にアクセス！



<https://jpna.jp/education/nintei>

【お問い合わせ先】

一般社団法人日本精神科看護協会 認定事業担当
TEL：03-5796-7033

精神科認定看護師をめざす方のための 説明会を無料配信中！

精神科認定看護師をめざす方のための説明会を無料配信中！
マナブルからお申し込みください。これから資格取得をめざす方におすすめです。



2025年度研修会
manaable



研修会 PICK UP !

■【本部】倫理教育講師養成研修会

日精看では精神障がい者への適切なケアを行うための精神科看護職の倫理教育推進事業を実施しています。

事業のひとつである本部主催の「倫理教育講師養成研修会」については、より多くの方に受講いただけるよう今年度は全国5か所（北海道・福島・東京・大阪・福岡）で開催しています。全国から多くの看護管理者や教育担当者、精神科認定看護師の方等にご参加いただき、実践現場での倫理教育の充実と組織の体制づくりが推進されていると感じます。

今回は5月に福岡で開催された研修会の様子と受講者の声をお届けします！



▶【本部】倫理教育講師養成研修会に、ぜひご参加ください！

北海道開催(10月29日)

東京開催(11月27日)

申し込みは
こちらから！申し込みは
こちらから！

受講者の声

管理者になると、時間の都合からどうしても倫理カンファレンスに参加できないこともありました。今回の研修会では、倫理や虐待のことをあらためて意識し、病棟のカンファレンスへの参加や会議で倫理について取り上げられるよう、またがんばろうと元気をもらえました。他施設の方とのグループワークは、同じ悩みを共有し、臨床での「もやっと」が解消できる有意義なものでした。

精神障がい者の権利擁護をはかることが今回の改正精神保健福祉法の目的であることをあらためて認識しました。通報義務という言葉に過敏に反応し、業務従事者が誤った認識をもたないように伝えていくことが大切であると感じました。そして、精神障がい者の権利を守り、虐待を生じさせない体制をつくること、虐待が「ある・ない」という議論だけで終わらないようにしていくことが大切であることを実感できました。

講師からのコメント

日精看が取り組んでいる倫理教育は、社会規範や道徳心というとらえ方だけではなく、看護の専門技術として習得することを目的としています。精神科看護の専門性を基軸においた教育内容ですから、看護に従事する新人からベテランまで、すべての看護職に役立てていただけます。

昨年度の倫理教育推進事業の研修会受講者は、全国で1,600名を超えました。研修参加者からは「あらためて精神科看護師としての自己効力感が高まった」という感想をたくさんいただきました。

今年度の「【本部】倫理教育講師養成研修会」は、残すところ東京・北海道のみとなりました。皆様にご参加いただけますと幸いです。



草地仁史(くさち・ひとし)
一般社団法人日本精神科看護協会
業務執行理事(東京都)

アンケート調査ご協力へのお礼

西日本方面の会員施設の皆様には、「実習指導者講習会」の兵庫県開催に関するアンケート調査にご協力いただきありがとうございました。理事会審議の結果、実習指導者講習会の兵庫県開催(西日本方面)については見送ることといたしました。



学術集会の
情報は
こちらから

INFORMATION

学術集会

第32回 日本精神科看護専門学術集会 in 福島

【会場】ビッグパレットふくしま（郡山駅よりバス 15 分）

【会期】2025 年 11 月 1 日（土）～ 2 日（日）

【事前申込期間】9 月 1 日（月）正午～ 10 月 6 日（月）正午

申し込みのご案内は学術集会専用ホームページをご覧ください。

学術講演

“私”が虐待加害者になるとき：心のメカニズムと予防法

悪い人だけが虐待をするわけではない。愛にあふれた有能な人も、虐待加害者になることはある。「私」もまた、例外ではない。個人を責めて終わるのではなく、背景にある人の心理や組織のあり方を考えよう。人間は環境の動物であり、組織や集団の力は強いからだ。その力に個人が逆らうことは非常に難しい。そして人は、たとえ善人であっても、いつも自分を正当化する。虐待防止のために、人間関係と心のメカニズムの理解から始めよう。

【講師】



碓井真史（うすい・まふみ）

新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科 教授

「あさイチ」「チョコちゃんに叱られる」「ミヤネ屋」ほか、話題の番組に出演！

ご当地情報

クセになる魔力！ 郡山ブラック

福島のラーメンを語るうえで、郡山ブラックは欠かせない存在です。見た目は驚くほど黒く、「これは本当に飲んで大丈夫なのだろうか……」と一瞬不安になりますが、ご安心ください。一口すすれば、濃厚なコクと香ばしさが押し寄せ、箸が止まらなくなります。スープも気づけば飲み干して、自分でも驚くことになるでしょう。もちろん、喜多方のあっさり醤油や白河の手打ち麺も素晴らしいのですが、郡山ブラックには“クセになる魔力”があります。少し塩気が強めなのに、不思議とまた食べたくなるのです。

福島を訪れた際には、どうか郡山ブラックという名の深淵に、一歩踏み出してみてください。食後にはきっと、「また来よう」とつぶやいている自分に気づくはずです。現在、郡山市内に 30 軒ほど提供している店がありますのでお好みの味を開拓してみてください。



郡山ブラック

〈福島県支部 藤田雅道〉

教育セミナー（精神科認定看護師の会）

精神科看護におけるハラスメントの予防と対応

～わたしたちができること～

看護師は患者への接近や接触が多いことから暴力などの被害にあいやすい傾向がありますが、このようなハラスメントを受けた看護師は、身体的・精神的にダメージを受け、その後の業務に支障をきたすことが報告されています。

本企画では、3 名の精神科認定看護師に取り組みについて報告してもらい、ハラスメントの実態や予防、発生した際の対応について共有します。精神科看護師自身が安心して働き続けられる工夫について一緒に考えてみませんか。

第 50 回日本精神科看護学術集会を開催しました！

2025/6/6(金)～7(土)、第 50 回日本精神科看護学術集会を兵庫県で開催しました。参加者は 1,260 名でした。

「精神科看護の未来を拓く」を学術集会主題とした今回の学会は、日本精神科看護協会の吉川会長と精神科認定看護師の会の会長の後藤氏との対談形式での基調講演から始まり、「未来の精神科看護を自由に発想する」シンポジウムで締めくくりました。恒例となった第 5 回精神科看護 CONGRESS では、患者の権利擁護に加え、看護師にとつての安全な職場環境について取り上げました。教育認定委員会企画では来年の投稿から改定・実施される一般演題「投稿規程・執筆要領」の解説、支部企画と特別企画ザ・座談会では神戸で起きた虐待に関連したテーマを取り上げました。150 題の支部推薦論文発表をはじめとした、数多くの演題発表も行われました。

6 日（金）の夜には、50 周年記念交流会を「清交倶楽部～SEIKO CLUB～」で開催しました。白鷺太鼓の音が会場内に響き渡り、圧巻のパフォーマンスでした。

来年の学術集会は静岡県浜松市で 2026/6/26(金)～27(土)に開催します。ぜひお越しください！



八杉利美・兵庫県支部長(右)と
池田秀幸・事務局長(左)

看護研究助成費の公募

日精看は、精神科看護の学術の向上に資する目的で研究助成費を交付しています。

詳しくは、日精看オンライン「学術集会・研究」のページに掲載している、研究助成費交付規程・応募書類を確認してください。

【公募期間】

2025/9/1(月)～10/31(金)

【応募資格】

研究代表者および分担者は応募時に会員(会費納入済み)であること。

※発表時も会員(会費納入済み)である必要があります。

【採否通知】

2026 年 1 月下旬ごろまでに通知予定。

【応募先】

gakkai@jpna.or.jp

※研究助成費交付規程が一部改定されています。ご確認のうえ、応募書類をメールでお送りください。

第50回 定時総会報告

第50回定時総会は、2025/6/21(土)品川区立総合区民会館「きゅりあん」において開催されました。136名中90名の代議員の方が会場にお集まりいただき、41名が議決権を行使しました。会費支払い方法についてのご質問や支部事務局運営についてのご意見をいただきました。

書面および総会議場における集計は、右記のとおりとなりました。

	議案	賛成 (書面)	反対 (書面)	無効/ 棄権	承認に必要な数
第1号議案	2024年度事業報告および決算報告	90(41)	0(0)	5	出席者の1/2
第2号議案	定款変更について	90(41)	0(0)	5	出席者の2/3
第3号議案	役員改選について	85(41)	2(0)	8	出席者の1/2
第4号議案	2026年度正会費の額について ※2025年度と同額	87(41)	0(0)	8	出席者の1/2
第5号議案	2025年度役員報酬上限額について ※2024年度と同額	87(41)	0(0)	8	出席者の1/2

新たな役員体制が決まりました——理事の紹介

第50回定時総会後の同日の臨時総会で役員(理事17人、監事3人)が選出され、新体制となりました。引き続き、よろしくお願いいたします。

⑨ = 新任 ⑩ = 再任 無印 = 継続



代表理事・会長
吉川隆博(きかわ・たかひろ)
東海大学医学部看護学科
(神奈川県)

神奈川県の東海大学に勤務しています。これまでの臨床、教育、行政経験を活かし、活動理念の実現に向けてさらに貢献していきたいと思っています。



代表理事・副会長 ⑩
内野隆幸(うちの・たかゆき)
医療法人緑心会福岡保養院
(福岡県)

6年ぶりに理事として選任していただきました。精神科看護の現場で培った経験を活かし、皆様のご期待にこたえられるよう尽力してまいります。



代表理事・副会長
中園明子(なかその・めいこ)
公益財団法人慈愛会笹貫訪問
看護ステーション愛の街(鹿児島県)

精神科看護の魅力とやりがいを地域に発信し、誰もが安心して暮らせる社会に貢献したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



代表理事・副会長
西岡由江(にしおか・よしえ)
社会福祉法人ファミーコ高知 高知
ハビリテリングセンター(高知県)

地域の精神科医療と福祉の現場で、実践を重ねてきました。その視点を協会活動に活かし、誰もが安心できる看護の環境づくりをめざします。



業務執行理事
金子亜矢子(かねこ・あやこ)
一般社団法人日本精神科
看護協会(東京都)

これまでを尊重しつつも、何を残し、どう新しくするかを考えながら、日精看の活動がより充実し、会員のみなさんにとって役立つものになるようがんばります。



業務執行理事
木戸芳史(きど・よしふみ)
浜松医科大学医学部看護
学科(静岡県)

「日精看の会員であること＝信頼のおける専門職である証し」であり続けられるよう、会員の皆様の成長をサポートしていきます。



業務執行理事
草地仁史(くさち・ひとし)
一般社団法人日本精神科
看護協会(東京都)

社会にとっていままで以上に精神科看護職の力が必要な時代に突入しました。会員の皆様とともに創造力豊かな看護活動を推進していきたいと思っています。



業務執行理事
中庭良枝(なかにわ・よしえ)
一般社団法人日本精神科
看護協会(東京都)

精神科看護職の活躍を社会へ発信し、周知していけるよう情報発信に努めたいと思います。また支部の声を聴き、ともに活動を進めていけるようがんばります。



業務執行理事
花田政之(はなだ・まさゆき)
医療法人白日会黒川病院
(新潟県)

2期目の理事を拝命いたしました。たくさんの方の会員の皆様に魅力を感じていただける協会であるよう、微力ですが、がんばっていききたいと思います。



業務執行理事
比嘉将和(ひが・まさかず)
沖縄県立精和病院
(沖縄県)

看護の現場の意見をいただきながら、会員の皆様とともに成長し、精神科看護の専門性と素晴らしさを社会へ発信できるようがんばりたいと思います。



理事
明間正人(あけま・まさと)
医療法人昨雲会飯塚病院
(福島県)

福島県の明間です。主に教育認定委員会と、東北を担当させていただきます。11月の専門学術集会が行われる福島に、ぜひいらしてください。



理事 ⑨
春日良峰(かすが・よしたか)
医療法人仁和会埼玉江南
病院(埼玉県)

この度、理事を拝命いたしました。協会理念の実現に向けて、会員の皆様のお力になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



理事 ⑨
小瀬古伸幸(こせこ・のぶゆき)
訪問看護ステーションみのり
(奈良県)

この度、精神科看護協会の理事を拝命いたしました。現場の声を大切にして、精神科看護の発展に寄与できるよう努めます。よろしくお願いいたします。



理事 ⑨
佐々木幸枝(ささき・さちえ)
社会医療法人清和会西川
病院(島根県)

この度、理事に就任しました島根県支部の佐々木です。精神科看護に携わる者として、看護の暗黙知を可視化できるように活動したいと思っています。



理事
竹居由香利(たけい・ゆかり)
社会医療法人加納岩日下部
記念病院(山梨県)

精神科看護に従事するみなさんが看護の対象者の方々と積み上げている専門職としての成果を、これからも協会として示せるように努めたいと思います。



理事 ⑨
平岡 聡(ひらおか・さとる)
医療法人清風会茨木病院
(大阪府)

この度、理事に就任しました大阪府支部の平岡です。現場の意見をいただきながら、活気ある協会活動の一助となれるよう尽力してまいります。



理事
増満 誠(ますみつ・まこと)
日本赤十字北海道看護大学
(北海道)

「人はみな学ぶ旅人」という言葉があります。2期目の理事として、会員の皆様の学びの機会の創出と保障に一層邁進したいと思っています。

2025年度 会長表彰、厚生労働大臣表彰

第50回日本精神科看護学術集会において、6/6(金)、式典を開催いたしました。

5年に1度の厚生労働大臣表彰もあり、法人化50周年にふさわしく、素晴らしい表彰式でした。たくさんの来賓、会場の方に見守られ、厚生労働大臣表彰24名、功労者3名、優良会員17名が表彰を受けました。

【厚生労働大臣表彰】

北海道	今井 廣重 (医療法人社団倭会三恵病院)
青森県	杉田 正 (医療法人芙蓉会こころのケアセンターふよう)
秋田県	高橋恵利子 (特定医療法人荘和会菅原病院)
群馬県	工藤 昭 (医療法人大和会西毛病院)
埼玉県	佐藤 羊子 (医療法人社団輔仁会大宮厚生病院)
千葉県	雨宮 英樹 (医療法人明柳会恩田第二病院)
福井県	水江 敏栄 (医療法人嶺南こころの病院)
山梨県	猪又加寿子 (山梨県立病院機構山梨県立北病院訪問看護ステーション)
長野県	篠田 守 (社会医療法人栗山会飯田病院)
岐阜県	田宮直太郎 (医療法人静風会大垣病院)
静岡県	竹田 博士 (医療法人社団澤記念会神経科浜松病院)
三重県	福田 晶子 (桑名医師会立桑名看護専門学校)
滋賀県	脇坂 直隆 (社会福祉法人青祥会坂田メディケアセンター)
京都府	桐畑 宏子 (一般財団法人療道協会西山病院)
大阪府	檜 晋輔 (社会医療法人北斗会さわ病院)
奈良県	林 年美 (公益財団法人天理よろづ相談所病院白川分院)
島根県	枡本 典子 (社会医療法人正光会松ヶ丘病院)
岡山県	岡本美登里 (一般財団法人河田病院)
山口県	梶野由美子 (医療法人和同会片倉病院)
愛媛県	内田 浩 (一般財団法人創精会 訪問看護ステーションみさわ)
福岡県	高崎スズヨ (医療法人信和会大牟田保養院)
熊本県	後藤 郁美 (医療法人仁木会 ニキハーティーホスピタル)
大分県	松本 貴之 (医療法人とよみ会仲宗根病院)
沖縄県	渡慶次智子 (読谷村地域活動支援センターみつ葉)

【功労者表彰】

岩手県	高木 千鳥 (医療法人財団正清会遠野はやちねホスピタル)
千葉県	清水 勝幸 (医療法人学術会木村病院)
奈良県	大谷須美子 (一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん)



式典で表彰を受けた方々

【優良会員】

北海道	河南 康夫 (医療法人社団立青会なるかわ病院)
埼玉県	浅見 幸子 (一般社団法人槻会新狭山かえでクリニック)
神奈川県	荻野 智美 (医療法人徳洲会横浜日野病院)
岐阜県	寺山 昭広 (公益社団法人岐阜病院)
静岡県	曾根満寿代 (一般社団法人日本精神科看護協会静岡県支部気付)
三重県	河村 誠 (一般社団法人日本精神科看護協会三重県支部)
兵庫県	熊本 紀之 (医療法人水光会伊丹天神川病院)
鳥取県	宮脇 映子 (社会医療法人仁厚会医療福祉センター倉吉病院)
島根県	佐々木幸枝 (社会医療法人清和会西川病院)
岡山県	杉本 幸夫 (医療法人社団井口会向陽台病院)
広島県	西村 直和 (医療法人仁康会小泉病院)
山口県	山田 陽一 (医療法人光の会重本病院)
愛媛県	村上 彰 (医療法人十全会十全ユリノキ病院)
福岡県	濱内 定秋 (医療法人社団翠会行橋記念病院)
長崎県	原 純一 (医療法人光仁会光仁会病院)
熊本県	池田ゆき子 (医療法人松生会松田病院)
沖縄県	那覇 直 (医療法人卯の会新垣病院)

訂正とお詫び

6月22日号 p11「賛助会員からのメッセージ」にご寄稿いただいた林孝之さんの読みがなに誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

【誤】はやし・たかのり→【正】はやし・たかゆき

日精看ニュース No.781 2025(令和7)年8月22日発行

編集：宮本恵理子、鈴木 庸 / デザイン：TAKAIYAMA inc. / 運営：コッヘル / 発行人：吉川隆博 / 発行者：一般社団法人日本精神科看護協会
日本精神科看護協会 〒108-0075 東京都港区港南 2-12-33 品川キャナルビル7F
TEL 03-5796-7033 / FAX 03-5796-7034 / E-MAIL info@jpna.or.jp

『日精看ニュース』偶数月22日発行 | 1部200円＋税 ©日本精神科看護協会 2025 | 本誌記事、写真、イラストの無断転載を禁じます

「日精看オンライン」は
パソコンでもスマホでも

➤ jpna.jp



3つのポイント

vol.3 大分県支部

大分県支部から学べる3つのポイント

- ✓ 楽しく学べる場づくり“を重視した集合研修の継続
- ✓ 幹事同士の信頼と一体感が支えるアットホームな運営
- ✓ 将来的な会員育成にもつながる教育機関との相互連携

中園 大分県支部は、2024年度に会員数を169名から174名へと増やし、伸び率103%を記録しました。全国的には会員数減が続くなかの純増は、とても励みになります。どのような取り組みをされてきたのでしょうか?

塔尾 特別な施策があったわけではないのですが、私たちが何より大切にしていないのは、“楽しく参加できる場”をつくることです。コロナ禍以降、オンライン研修も一時期試しましたが、現在はあえて「対面型」に完全に振り切り、集合研修のよさを重視しています。やはり直接集まって、他施設の方と話したり笑ったりする時間が、会員の皆さんにとっての原動力になるのだと思っています。

後藤 特に人気なのが、ファーストエイドや倫理研修会など、参加者同士が自然に会話できる実技系の研修です。また、年4〜5回開催している事例検討会は、「悩みを共有できる」と好評で、「口コミ」で広がっています。研修後に「楽しかった」「また来たい」と言っていたのが一番の喜びです。

中園 「また来たい」という気持ち、会員の定着や増加に結びついているんですね。

塔尾 事例検討会をきっかけに「幹事として関わってみたい」と申し出てくれた若手の方もいました。私たちとしてもとてもうれしい出来事でした。会員数の増加は、こうした“参加したくなる空気”の積み重ねの結果かもしれません。

中園 幹事のチームワークも印象的です。

塔尾 はい。幹事同士の信頼関係は深く、気軽に冗談を言いあえる雰囲気があります。この空気は、研修の場でも自然と伝わっているようで、「なんだか楽しそ

う」と感じられる方が多いんです。かしこまりすぎず、ラフに、フラットかわる姿勢を大切にしています。研修会に初めて参加される方には、受付や会場で「気楽に参加してくださいね」と声をかけるようにしています。一人でボツンとならないように幹事全員が気を配る——それも、大分県支部の文化だと思っています。「楽しくなければ支部じゃない」。それくらいの気持ちでやっています。

後藤 SNSで発信するときも、講師がレクチャーする様子より、参加者が集まっている賑わいの様子を伝えるほうが反応がいい印象です。「自分もこの輪に参加してみたいな」と感じてもらえる空気づくりを意識しています。

中園 日精看の活動を、堅苦しくないもの“として伝えられている点が素晴らしいです。来年度に向けての目標や、今後力を入れていきたいことはありますか?

塔尾 まずは、今年来てくださった方に「来年も行こう」と思ってもらえる研修会を継続すること。それが一番の目標です。また、研修会だけでなく、スポーツや交流会のような“非研修型のつながりの場”も取り入れていきたいです。

後藤 集合型研修会に振り切ったことで生まれる課題として、会場から遠方の参加者に対するフォローが考えられます。そこで、研修会を希望する施設に講師を派遣する形での実施も検討中です。まずは集合研修に参加する醍醐味を知っていただくことで、地域の隔たりを超えていけたらと思っています。

中園 大学との連携も大分県支部の強みと感じます。現役の大学教員である後藤さんが支部にかかわってくださるようになったことが大きいのでしょうか。

お話をうかがった人



大分県支部長
塔尾浩次さん
(医療法人善慈会
大分丘の上病院)



大分県支部教育委員長
後藤成人さん
(大分県立看護科学大学)

聞き手



日精看副会長
中園明子さん
(公益財団法人慈愛会笹貴
訪問看護ステーション愛の街)



支部研修会の様子

たことが大きいのでしょうか。

後藤 私は大学教員として学生を実習に送り出す立場でもあります。日精看とつながり、実習先の選択肢も広がりましたし、学生も安心して実習に臨めるようです。「精神科っておもしろい」と思ってもらえる入り口が広がったと感じています。

塔尾 後藤先生のネットワークを通じて講師の紹介をしていただくなど、質の高い研修会の実現のために日々尽力いただいていますし、「コロナ禍でのオンライン対応でも大学での実践が大いに参考になりました。教育現場と支部が相互にメリットを得ながら連携できていることが、当支部ならではの強みだと思います。

中園 人と人とのあたたかな関係性が、支部を支え、未来の会員育成にもつながっているんですね。本日はありがとうございました。